

# 県立芦屋高校 (芦屋市宮川町)

# ボランティア部



スクリーンに映し出された芦屋市全域の地図上に人口分の青い点が散らばる。地震後、点は主要ルートに集約し、JR線以北に移動していく。11分後には海側から津波が押し寄せる。間に合うのか。

南海トラフ大地震を想定した芦屋市内の津波避難シミュレーション。阪神・淡路大震災の被災者から聞き取った避難時の状況などをデータに反映し、完成させた。

現在、部員は1、2年生7人。東日本大震災後の2013年に発足した。1期生は東北の被災地に足を運び、交流を続けてきた。現地で感じてきた避難訓練の重要性を、2期生が引き継ぎ、数理学部と連携し



先輩から引き継いだ思いを広げたい

メモ ボランティア活動に励む中高生を対象とした「ボランティア・スピリット賞」(プルデンシャル生命など主催、応募数1807組)の関西ブロック賞に選ばれ、代表として今月22

24日に東京都内で開催される全国大会に出場する。阪神・淡路大震災を経験した芦屋市民と東日本大震災の被災地での聞き取りを行った1期生に続き、2年連続で選出された。

てシミュレーションが始まった。10月には、同校のある宮川町内の住民向けに初めて発表し、多くの質問や意見を受けた。大西亜

矢顧問は「普段から一緒に考える機会を持つことが減災につながる」と話す。

移動開始を発生直後と60分後と比較したり、近くの避難所に避難したりした場合など、数種類のケースを想定。「要援護者の移動を手伝う場合」は、これまでの障害者支援活動での気付きから生まれた。

部長の2年田中芳乃(17)さんは「大きなテーマは『伝えてつなげる』。先輩から引き継いだ思いを広げていきたい」と話している。

(石川 翠)

南海トラフ大地震を想定した津波避難シミュレーションを使いプレゼンの練習をする部員  
芦屋市宮川町

# 聞き取り基に避難想定